



平家伝説が幾つも残る祖谷の地。安徳帝のご火葬場所やおまつりした神社もあり、国盛が植えたという「幹杉」や「平家の赤旗」も伝えられてきました。

真実を隠す山

祖谷の山はたくさん秘密を抱えています。秘密を守るために山中に分け入った人もおりました。その代表が平家の落人たちです。

平安時代におこった源平合戦は、日本全土を舞台に繰り広げられた紅白戦。日本史に燦然と輝く一大センセーションでした。その話題は各地で語られ、数々の落人伝説が残されてきました。祖谷では落人伝説を、子ども頃から繰り返し聞いて育った人が大勢います。



祖谷の地に永住した国盛一族、その屋敷は巨木の森を背に今もひっそりとたたずんでいます。

ときに伝説は史実と異なることがあります。その秘密を解き明かすには、ずいぶんと時が経ってしまいました。ただ、そういう話が語り継がれてきたというのは、まぎれもない事実。そこには語り部たちが伝えたかった真実が隠されているはずです。

この地では、屋島の合戦に敗れた平国盛一族は、安徳天皇をお守りして讃岐山脈を越え、祖谷の地で過ごされたといわれています。真実か否か、まずはこの地に足を踏み入れてその史跡を訪ねてみてください。

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす

おこれる人も久しからず ただ春の世の夢のごとし

たけき者もついに滅びぬ ひとえに風の前の塵に同じ

〈平家物語 冒頭より〉



祖谷の地に伝わる平家の赤旗に記された紋章は「むかい揚羽」